

日本、アジアのシマアオジ保全

ひろげる助成

2年目

調査研究

シマアオジに標識・タグ装着 12羽

ミャンマーで
ワークショップ開催 150人

今年度計画の達成度 90%

目標達成度 60%



ヤンゴン大学でのワークショップ

活動内容と成果

事業は順調に進んでいる。日本、ロシア、モンゴルの調査ネットワークを通じて、シマアオジ約50個体に標識し、DNA解析用サンプルを収集した(うち30羽にジオロケーターを装着)。保全の普及啓発を中国とミャンマーで進め、国際鳥類学会議では中国と調査計画を検討した。



サハリンでシマアオジに
ジオロケーター装着

課題

シマアオジはユーラシア大陸で最も多い鳥類の一つであったが、現在では絶滅の危機に瀕している。シマアオジの国際保全計画を立案すると共に、早急な保全対策を実施する。

目標

シマアオジの国際保全計画の立案、北海道及びサハリン個体群の安定・回復(に必要な調査)、越冬地の状況把握、シマアオジなど渡り性陸鳥類の密猟対策・保全への理解促進。



今後の
展望

中国は小鳥類の保全へ参加の度合いを深めつつある(中国の密猟と環境汚染が小鳥類への最大の脅威と推測されている)。将来的にアジアのフライウェイ諸国が参加する渡り鳥保全のプラットフォーム構築を目指したい。

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

アジア諸国では小鳥類の調査の優先度は低く、保全関係者・機関から環境指標としての重要性について理解を得るには時間を要する。

■工夫した点

ロシアと中国について、両国との二国間渡り鳥保護会議を通じてサポートを受けて事業を進めている。

活動地域  アジア広域、日本全域

〒103-0014
東京都中央区日本橋筋般町1-13-1
ユニオンス般町北島ビル1階
電話：03-6206-2941
<http://tokyo.birdlife.org/>

